

# 家庭と一体となり作り上げる ウォークラリー

茨城県立  
並木中等教育学校  
全校生徒数397名  
(男子198名 女子199名)  
電話番号 029 (851) 1346

実践内容

実施目的

- ①集団行動における規律、困難な経験を通しての公正・協調性・責任感等、社会生活における規範を学習する。
- ②自己の体力と気力を十分に発揮し、強健な心身の発達を図る。
- ③交通道德、生活のマナーを学ぶ。

実施内容

## 1 ウォークラリーの実施方法

- (1)霞ヶ浦ふれあいランドをスタートし、ゴールの学校まで50km以上に及ぶ長い距離を一昼夜にわたって歩き通す。  
※1日目の歩行距離34km、2日目の歩行距離21km
- (2)1日目は原則として2列隊列の団体歩行とし、2日目はグループ歩行とする。
- (3)休憩は小休止(5kmごと)、中休止(昼食、夕食)、大休止(仮眠)とする。
- (4)並木高校の伝統行事であり、中等前期課程も一緒に行っている。今年は中等3学年がそろい、6学年でのウォークラリーとなる。  
(並木高等学校 全校生徒数560名：男子258名／女子302名)

## 2 学校の組織体制づくり

- (1)校務分掌としてウォークラリーがあり、委員長は1年前から活動を開始する。
- (2)教員の実行委員は、管理職をはじめ、各学年、関係校務分掌からなり、総勢24名。
- (3)生徒の実行委員はすべての学年から有志が集い(50名)、歩行の隊列の指揮を行う。
- (4)各クラスから男女各1名のクラスリーダーを選出し、点呼等をとる。

## 3 保護者との連携・協力

- (1)PTA本部役員、支部役員でも話し合い、広報委員や生徒指導委員にも協力してもらう。
- (2)広報委員は10名で、各場所で写真を撮影し、並木の広報誌に掲載する。
- (3)PTA生徒指導委員と並木支部PTAでは交通整理を担当する。
- (4)看護師資格のある保護者約10名は、小休止・大休止でのまめ治療を担当する。
- (5)ゴール時の豚汁作りは、70名の保護者の協力を得て実施する。

実施上で工夫したこと

- ①すべての職員がかかわり、昼食、夕食、仮眠、ゴール等を準備した。
- ②リタイヤ者の搬送やトイレ等、様々なことを想定して準備をした。
- ③保護者にも交通整理や、足のまめ治療、ゴールでの豚汁づくり等で協力してもらった。
- ④1000人近くが歩行するので、コース周辺の家には事前に挨拶に伺った。
- ⑤インターネットブログでライブ配信を行い、家庭でも歩行の様子を知ることができた。

主な成果

- ①集団行動を通して、規律の必要性を感じ、困難な状況の中、責任感や協調性を学ぶことができた。
- ②2日間、歩き通す体力と気力が身に付き、強健な心身の育成が図れた。
- ③保護者・教員・生徒が一体となって、一大行事のウォークラリーを成功させることができた。

期日	歩行形態	地点	積算距離 (km)	予定時間		歩行時間 (分)
				到着	出発	
9月25日(土)	団体歩行	霞ヶ浦ふれあいランド(スタート)	0.0	8:10	9:00	50
		浜駅(旧鹿島鉄道跡地)	3.2	9:50	10:00	50
		桃浦駅(旧鹿島鉄道跡地)	6.5	10:50	11:00	50
		共栄	9.9	11:50	12:00	50
		小美玉市生涯学習センター(中休止)	13.0	12:50	13:50	75
	歩行区間	桜づつみ公園	17.5	15:05	15:15	75
		新治	22.2	16:30	16:40	90
		千代田中央公民館(中休止)	27.7	18:10	19:10	55
		雪入	31.4	20:05	20:20	45
		中央青年の家(大休止)	34.0	21:20	6:00	
9月26日(日)	グループ歩行区間	土浦市役所新治庁舎駐車場(CP:チェックポイント1)	42.0			120
		つくば市吉瀬(CP2)	50.4			150
		並木中等教育学校	55.0	12:00		90
		並木高等学校(ゴール)				

**ウォークラリー行程表**



**中休止(昼食)**

持参した食料での昼食

中学校



**1日目隊列歩行**

天候も回復し、2列の隊列が続く



**大休止(仮眠)**

毛布が1枚貸し出され男子は体育館で仮眠



**まめ治療**

看護師資格のある保護者の協力



**2日目グループ歩行**

グループで助け合いながらゴールを目指す



**ゴール**

保護者がつくってくれた豚汁



**豚汁**

完歩後の豚汁はとてもおいしい